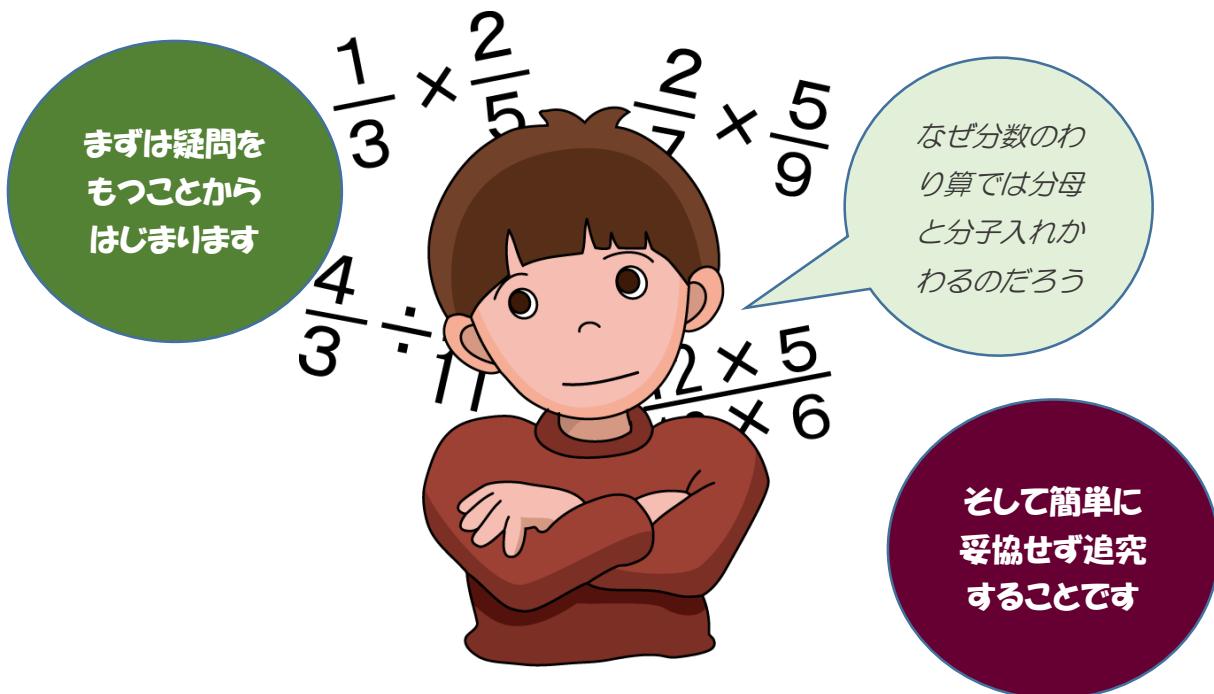


基礎力とは何だろう？

簡単・安易ということではありません。

基礎力とは応用力につながる基盤となるものです。受験勉強では目標のために手段選ばずという傾向があります。公式に頼ったりパターンにはめこむ学習では決して応用力はつきません。学習しても成績が伸びない最大の原因はここにあるのではないかでしょうか。スポーツの世界でも正しいフォームを身に着けないと上達しません。ゴルフのショットでもフォームがくずれてしまうと真っ直ぐに飛ばないことはお父さん方にとってよくわかる例だと思います。



では正しいフォームはどのようにして作るのでしょうか。

言い古されたことですが「読み・書き・計算」が基本です。それらを早期に取り入れ自分の学習姿勢を作ることです。内容にもよりますが図形とくに3次元空間の感覚は幼児期に形成されるものが多く展開図や立体の切り取りなどはその一部です。そこまで早期でなくとも小学校3年生まで数の分割や合成などの数量感覚、図形の構造などは時間をかけても理解しておくことです。余力があれば一つの問題を複数の解法で解くのも必要です。国語では何と言っても「読書」です。読書量=国語力。この図式には例外がありません。

辛抱強い指導が不可欠

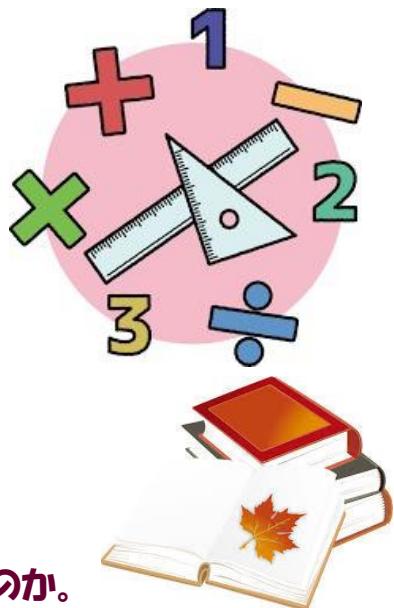
時間がありません。手段を選ぶ余裕がありません。

受験勉強を始める時期は人により異なります。遅くから始めた場合焦るのは当然のことです。時としては手段を選ぶこともあるかもしれません。その場合それが本当の学力とは思わず受験後に再構築しなければなりません。二度手間となり時として成績が伸びないという現象になります。進学実績のある一定のレベルであれば等身大の学校を選ぶことも視野に置きましょう。基礎力が欠けていると学習量を増やしたからといって目標に到達するとは限りません。中学、高校そして大学新テストも視野において長期のサイトで見ることです。



塾でそんなことをしていたら競争に勝てません。

塾に通うのは何のためなのか。成績を伸ばすため、志望校に合格する競争力をつけるため、まだまだあるでしょう。しかし、塾での競争に勝っても中学、高校さらに大学、社会で負けては無駄な努力と葛藤に終わります。また、塾にもいろんなタイプがあります。難関校進学に特化した塾、補習的な内容にとどまる塾などさまざまです。難関校に特化している塾でも目標達成できず傷心が残る例も少なくありません。また、補習的な内容といってもただ簡単なことを学習するばかりなら「基礎力」さえ身につきません



保護者としてできることは？何に焦点をあければいいのか。

学習態度の確立です。例えば人の話を最後までよく聞く、短時間でもいいから集中できる、といった習慣を身に着けることです。また、辛抱強く指導してくれる指導者選びも大切です。見極めは、①指導経験、②人格、③指導者自身の学習経験(社会経験も含む)、④指導者の固定、⑤指導者の裁量が反映される教室環境など、これらの要素が3つ以上満たされていることです。といってもそれらを評価することは簡単ではありません。体験授業などで的確な判断ができるよう普段から保護者ご自身の目を養っておきましょう。大切な子どもの一生を左右する受験。表面的なことにとらわれず実態を見つめていきましょう。



標準関西 ■ 岸和田校

☎ 072-437-8641(代)